

表 5.2.8.57 重要な昆虫類一覧（現地調査）

科名	種名(和名)	選定基準					調査範囲								
							実施区域				実施区域の周辺地域				
		1	2	3	4	5	春季	初夏	夏季	秋季	春季	初夏	夏季	秋季	
カワトンボ	ハグロトンボ				要			●	●				●	●	
トンボ	コフキトンボ				要									●	
	ハラビロトンボ				要							●			
	チョウトンボ				EN	一								●	
	ナツアカネ				要										●
ケラ	ケラ				要			●					●		
キリギリス	キリギリス				要								●		
クビナガカメムシ	クロクビナガカメムシ				DD								●		
オサムシ	フタバシチビゴミムシ				NT							●			
ガムシ	コガムシ				NT								●		
コガネムシ	アオドウガネ					二									
ミズアブ	コガタミズアブ				DD									●	
8科11種		0種	0種	0種	11種	2種	0種	2種	2種	0種	1種	7種	3種	1種	
							3種				11種				

注) 選定基準欄の記号については表 5.2.8.45 参照。

表 5.2.8.58(1) 重要な昆虫類の確認状況及び一般生態

種名(和名)	項目	内容
ハグロトンボ	確認状況	任意調査時において、実施区域の水路で初夏に1個体が確認されたほか、実施区域の周辺地域を流れる笠張川及び相模川沿いにおいて、初夏に8個体、夏季に1個体確認された。また、ハグロトンボ生息量調査時には、実施区域の水路で8個体、実施区域の周辺地域を流れる笠張川、相模川、用水路で合計71個体が確認された。
	一般生態	本州、四国、九州のほか、佐渡島や淡路島といった島嶼にも分布する。幼虫は、平地や丘陵地等を流れる河川の水生植物が生育する場所に生息する。羽化後の一定期間は水辺から離れた樹林内で生活し、成熟すると岸際に縄張りをもつ。
コフキトンボ	確認状況	実施区域の周辺地域を流れる相模川の河川敷において、夏季に1個体が確認された。
	一般生態	北海道南部、本州、四国、九州に分布する。神奈川県内では各所から記録されているが、県西部では少ない。平地の抽水植物が繁茂する腐植栄養型の池沼や湿地、水田等に生息し、5～10月上旬頃にみられる。未熟個体も羽化水域を離れず、出現期の初めには抽水植物に群がり止まっている。成熟した雄は日中に池面を活発に飛翔して縄張り占有行動を行うが、夕方辺りが暗くなるまで飛び回る。
ハラビロトンボ	確認状況	実施区域の周辺地域を流れる相模川沿いの湿生植物群落において、初夏に1個体が確認された。
	一般生態	北海道、本州、四国、九州、種子島等に分布する。神奈川県内では各地の丘陵地、河川敷に分布するが、生息している個体数が減少傾向にある。浅い池沼や湿地、谷戸等を主な生息地とし、休耕田等でもよくみられる。成虫の発生は6月上旬～7月中旬頃が最盛期である。

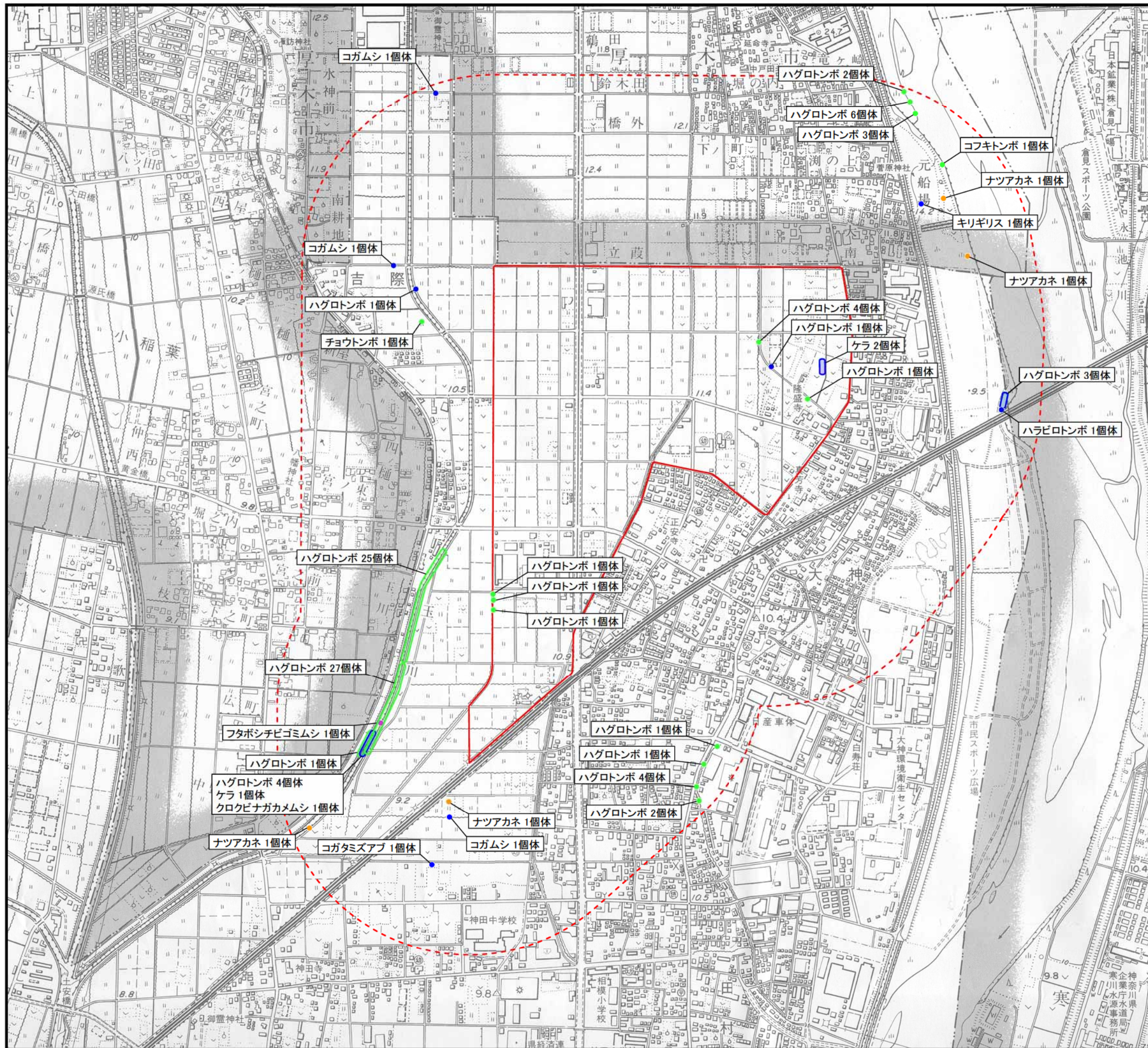
表 5.2.8.58(2) 重要な昆虫類の確認状況及び一般生態

種名 (和名)	項目	内容
チョウトンボ	確認状況	実施区域の周辺地域の水田において、夏季に1個体が確認された。
	一般生態	北海道、本州、四国、九州、五島列島、大隈諸島に分布する。神奈川県内では各地の記録はあるが、移動・飛来個体の記録が主体で、安定して発生する産地は稀である。沈水植物や浮葉植物が多く生育している自然度の高い止水域を好んで生息する。成虫の移動分散性は強く、水域のない場所で発見されることもある。5～8月頃に成虫がみられ、産卵の際はヒシ等の浮葉植物のある場所を好む。
ナツアカネ	確認状況	実施区域の周辺地域の相模川及び笠張川沿い、ヨシ原において、秋季に4個体が確認された。
	一般生態	北海道、本州、四国、九州に分布し、幼虫は平地から低山地にかけての抽水植物の繁茂する池沼や水田等の止水域に生息する。成虫は初夏に羽化を始め、晩秋までみられる。未成熟時は羽化水域付近の樹林の中で生活している。秋季になると体が赤く色づき、水辺に出てきて繁殖行動をとる。
ケラ	確認状況	初夏の調査時において、実施区域の畑地 (Bt.1) で2個体、実施区域の周辺地域を流れる笠張川沿いの草地 (Bt.3) で1個体、合計3個体が確認された。
	一般生態	北海道、本州、四国、九州に分布する。神奈川県内では低地に広く分布しているが、水田地帯でも声を聞かれることが少なくなっており、減少傾向にあると考えられている。水田付近の湿地に穴を掘って生活する。雄は地中で鳴く。飛翔することができ、灯火にもしばしば飛来する。
キリギリス	確認状況	実施区域の周辺地域を流れる相模川沿いの草地において、初夏に幼虫1個体が確認された。
	一般生態	本州、四国、九州に分布し、主に高茎草地に生息する。夏季に成虫が出現し、昼間さかんに鳴く。幼虫・成虫ともに雑食性である。
クロクビナガカメムシ	確認状況	実施区域の周辺地域を流れる笠張川沿いの草地 (Bt.3) において、初夏に1個体が確認された。
	一般生態	本州、四国に分布する。神奈川県内では、横浜市南部と寒川町から各1例ずつの記録がある。生態は不明であるが、雑木林を切り開いた運動場で夕暮時に発見されたり、灯火に飛来したりする。
フタボシチビゴミムシ	確認状況	実施区域の周辺地域の高茎草地 (Bt.3) において、春季に1個体が確認された。
	一般生態	北海道、本州、四国、九州に分布し、谷戸や河川敷等の湿地周辺のヨシ原等に生息する。水際に堆積したゴミ等の下によくみられ、灯火にも飛来する。食性等の詳しい生態は不明瞭な点が多いが、ほとんどのゴミムシ類が肉食であることから、小型昆虫を捕食するなどの肉食を行っていると考えられる。
コガムシ	確認状況	実施区域の周辺地域の水田において、初夏に3個体が確認された。
	一般生態	本州、四国、九州に分布し、植生の豊富な水田や湿地、池沼等に生息する。繁殖期は6月頃で、水草の間に白いまゆをつくり、その中に産卵する。幼虫は肉食性で他の水生昆虫等を捕食するが、成虫は主に草食性である。
コガタミズアブ	確認状況	実施区域の周辺地域の草地において、初夏に1個体が確認された。
	一般生態	北海道、本州、四国、九州、琉球に分布する。神奈川県内では県央の海老名市、厚木市、中井町からの記録がある。水田の流路や畦を生息場所としており、水田や湿地の減少により、生息地が減少していると考えられている。

注) 参考: 学研「学研生物図鑑昆虫Ⅲ」(昭和58年)

北海道大学図書刊行会「原色日本トンボ幼虫・成虫大図鑑」(平成11年)

神奈川県立生命の星・地球博物館「神奈川県レッドデータ生物調査報告書2006」(平成18年)



凡 例

- 実施区域
- 調査範囲
- 確認位置 (春季)
- 確認位置 (初夏)
- 確認位置 (夏季)
- 確認位置 (秋季)

※ 夏季調査にはハグロトンボ生息量調査の結果を含む



Scale=1:10,000

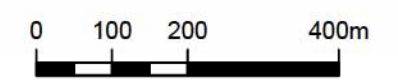


図5.2.8.19
重要な昆虫類の確認位置

オ. クモ類

抽出の結果、表 5.2.8.59～60 に示すとおり文献資料に基づく種として、2科2種が確認され、現地調査では、2科3種が確認された。

現地での確認位置を図 5.2.8.20 に、各種の確認状況及び一般生態は表 5.2.8.61 に示すとおりである。

表 5.2.8.59 重要なクモ類一覧（文献資料）

No.	目名	科名	種名 和名	文 献				選定根拠				
				①	②	③	④	1	2	3	4	
1	クモ	ジグモ	ワスレナグモ			●					NT	VU
2		コガネグモ	コガネグモ			●						要
1目2科2種				0種	0種	2種	0種	0種	0種	0種	1種	2種

注) 選定基準欄の記号については表 5.2.8.45 参照。

表 5.2.8.60 重要なクモ類一覧（現地調査）

科名	種名(和名)	選定基準				調査範囲								
						実施区域				実施区域の周辺地域				
		1	2	3	4	春季	初夏	夏季	秋季	春季	初夏	夏季	秋季	
ジグモ	ワスレナグモ			NT	VU				●					●
トタテグモ	キノボリトタテグモ			NT		●								
	キシノウエトタテグモ			NT		●				●				
2科3種		0種	0種	3種	1種	2種	0種	0種	1種	1種	0種	0種	1種	
						3種				2種				

注) 選定基準欄の記号については表 5.2.8.45 参照。

表 5.2.8.61 重要なクモ類の確認状況及び一般生態

種名 (和名)	項 目	内 容
ワスレナグモ	確認状況	秋季調査時において、実施地区で幼体の巣及び古巣2個が確認されたほか、実施区域の周辺地域で成体1個体、幼体の巣6個が確認された。
	一般生態	本州、四国、九州に分布する。草地や畑地、公園、社寺林の境内等の地中に縦穴を掘って巣をつくるが、入り口に扉は付けない。土地の開発や公園の改修、過度の清掃等により、生息環境の減少がみられる。また、バルーン（空中分散）を行うが、大きな距離を移動できないため、移動・分散性は低い。
キノボリトタテグモ	確認状況	実施区域の小規模樹林において、春季に幼体の古巣1個が確認された。
	一般生態	本州、四国、九州、琉球に分布し、社寺林の樹幹上や古木の樹皮上、低山の切り通しに扉を付けた短い巣をつくる。社寺の石垣や林道の改修工事等により、生息環境が減少しつつある。また、バルーン（空中分散）を行わず、移動・分散性は低い。
キシノウエトタテグモ	確認状況	春季調査時において、実施区域の小規模樹林で雌の巣2個と幼体の巣3個が確認されたほか、実施区域の周辺地域で雌の古巣1個と幼体の巣2個が確認された。
	一般生態	本州、四国、九州に分布し、西日本には少ない。社寺の石垣、崖地や切り通しの地中に穴を掘り、入り口に片開きの扉をつける。社寺の石垣や林道の改修工事等により、生息環境が減少しつつある。また、バルーン（空中分散）を行わず、移動、分散性は低い。

注) 参考：環境省自然環境局野生生物課「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブック7 クモ形類・甲殻類等」（平成18年）

株式会社学会出版センター「クモの生物学」（昭和62年）

神奈川県立生命の星・地球博物館「神奈川県レッドデータ生物調査報告書2006」（平成18年）

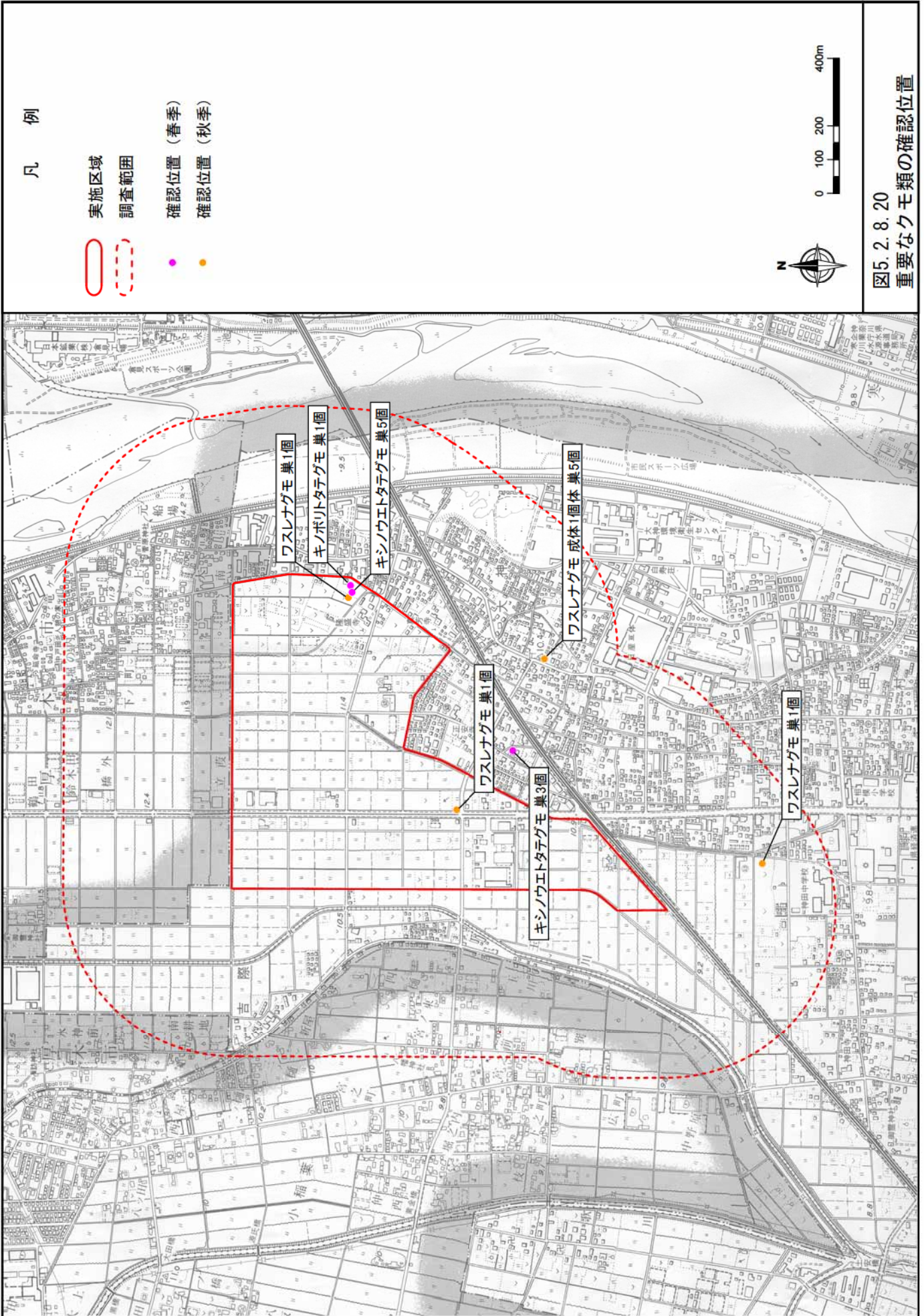


図5.2.8.20
重要なクモ類の確認位置